

平成26年度「関東のいい川づくり」選定委員会 発表順

順番	都県名	タイトル	概要	所属	氏名
①	千葉県	災害復旧及び津波対策事業について	東北地方太平洋沖地震の津波により破堤した堤防の復旧を災害復旧事業により実施した。また、これに並行して堤防のかさ上げ・強化を津波対策事業により実施している。	山武土木事務所 河川改良課	岩田 知之
②	神奈川県	大岡川における河川再生事業について	河川とまちが一体となった親水施設等の整備について。	神奈川県県土整備局 河川下水道部河川課	興津 俊太
③	群馬県	地域活性化に向けた川づくりからのアプローチ ～一級河川 神流川～	地域の観光振興に寄与するとともに、地域の皆さんに親しまれる川づくりへの取り組み。	藤岡土木事務所万場事業所	福島 薫
④	山梨県	常葉川の多自然川づくり ～モニタリング調査と景観への配慮～	河道断面を拓げる改修に際してのモニタリング調査(河道の瀬淵、水生生物の生息環境)と覆土等を含めた川の営力による河道内の復元を目指した川づくり。	峡南建設事務所河川砂防管理課	田中 宏昌
⑤	東京都	隅田川 ～美しくうおいある水辺空間の創出～	H24から26年度、延長約470mの景観整備を実施。当地の歴史背景を考慮したデザインを取り入れるとともに、都で初めてのライトアップを行い、うおいある水辺空間を創出した。	江東治水事務所 内部河川工事課 計担係	後藤 菜穂子
⑥	長野県	多自然川づくりの観点を取り入れた設計について	(一)遠山川、飯田市南信濃和田地区の河床低下対策について、地域住民と協働で実施した川づくりの目標設定、多自然川づくりの観点を取り入れた計画及び工事について報告する。	下伊那南部建設事務所	高橋 雅
⑦	栃木県	あばれ川から市民の憩いの場を -釜川-	宇都宮市街地を流れる釜川はあばれ川として知られていたが、放水路の設置により治水安全度を高めると共に本川を二層化し、良好な都市空間を創出した。	宇都宮市建設部河川課	大金 隆宏
⑧	埼玉県	吉田川の水辺再生	水や生物と親しむことができ、水辺に近づける場所を創出しました。	秩父県土整備事務所	勅使河原 史寿
⑨	東京都	人と水をつなぐ川づくりへの挑戦 ～霞川整備事業～	霞川調節池を含めた1時間50mmの降雨に対応する河川改修を実施するとともに、地域住民の多くが親しみを持ち、様々な場面で活用される河川整備を進めている。	西多摩建設事務所 工事第二課河川設計係	淵上 祐史
⑩	茨城県	涸沼の侵食対策について	涸沼(広浦地区)では近年侵食が進んでおり、松の根が露出し、湖岸線が後退している。そのため、養浜工等を実施し良好な砂州の保全を図った。	茨城県土木部河川課	宮崎 秀一

⋮

特別講演「余笹川流域連携ネットワークの活動について」余笹川流域連携ネットワーク 事務局長 福田一郎氏(元栃木県県土整備部 次長)

「関東のいい川づくり」選定委員 名簿

都県等	氏 名	役 職
整備局	泊 宏(代理:徳道修二)	河川部長(代理:河川環境課長)
	山本 恵一	地域河川調整官
	田畑 和寛	地域河川課長
茨城県	佐藤 啓司	河川課 課長補佐
	宮崎 秀一	主任
	窪谷 浩之	技師
栃木県	森戸 英雄	河川課長
	澤村 崇	河川課長補佐(総括)
	天谷 浩之	課長補佐
群馬県	荒井 唯	河川課長
	飯島 俊文	事業所長
	松本 栄	補佐
埼玉県	和栗 肇	水辺再生課長
	藤田 克彦	水辺再生課主査
	野村 正	秩父県土整備事務所担当課長
千葉県	五十嵐 隆夫(代理:須藤 忠雄)	河川環境課 副課長(代理:企画班長)
	中村 大介	副主査
	岩田 知之	技師
東京都	照井 安則	河川部改修課長補佐
	田中 祐輔	河川部改修課 主事
	中井 隆亮	河川部計画課 主事
神奈川県	横溝 博之	河川課長
	鳥居 洋隆	主任技師
	奥津 雄治	技師
山梨県	水上 文明	治水課長
	丸山 寛	治水課 課長補佐
	石橋 泉	峡南建設事務所 河川砂防管理課長
長野県	栗林 一彦	課長補佐兼治水第一係長
	村松 賢一	担当係長
	高橋 孝一	主査
	30名	

※各都県3名の選定委員の登録をお願いします。

※9/26までにご返送ください。